

◎魅力ある都市の条件

①都市に充足、完成はありえない

■木幡和枝

1 記憶としての都市

●国際都市モスクワにて

小雪がまばらに舞う窓の外、スターリン時代の建築がそびえ、その頂点には赤い星。極彩色のタマネギ型のロシア正教寺院。あちこちに大規模建築工事のクレーンなどの重機がそびえている。十月革命記念日（現暦では十一月）を終えたばかりのモスクワは、朝まだきの静けさだ。

治安は、物資は、交通の便は？と、この一年半、何度かモスクワへ来る都度、日本の友人たちからきかれた。すべて、今のところ、私自身は何も問題なし。当然だろう。大都市、国際都市モスクワ。訪問者の私が適度の額のドルを払えば、それなりの生活、活動ができる。だが、住んでいる人たちの経済は大変ら

しい。給与遅配、銀行業務の制限で、預金引き出しも不自由、インフレ……。

連邦首都モスクワ以外の状況は全く知らない。たぶん、流通もままならないだろうし、経済機会が少ないだけ家計ももっと困難だろう。

それを不問にふして言えば、モスクワは今、魅力的な都市として私の目にはうつる。かつて、共産党政権末期の頃から、来る度にこの町の成熟ぶりに傾倒していた。漠然と、町が大人っぽい、人が大人っぽい、と感じていた。東京の放縦、キャピキャピぶりに比してのと違ったのかもしれない。旧ソ連の経済や身分制度の重圧と、日本の資本主義・重商主義のねつ造した軽さの対比にすぎなかったのかもしれない。

②興行きを感じさせるモスクワの成熟度

だが今、改革後のモスクワで、網渡り的なスタイルで町のインフラから社会生活まで、新たに生まれ変わろうとしている様子を見て、ある成熟度を感じるのだ。今世紀だけでも大転換を何度か体験してきた人々のベース。モスクワっ子も新しいもの好きだから、アメリカン・ポップスから、ファスト・フードまで、何でもすぐに出現した。でも、「ものごとは、すぐには変わらない」という達観ももっている。為政者や経済勢力に優る、市民の落ち着いた気がモスクワの成熟度である。

この町は今、物理的にも大きく変容しつつあるが、それでも時代の記憶を何層にも蓄え、保持している。一新する経済力がないから、といってしまえばそれまでだが、果たしてそれだけだろうか。レーニン像こそ引き倒され

木幡和枝（こばた かずえ）氏

アート・プロデューサー、翻訳家。TBSブリタニカ社、工作舎の編集者を経て、昭和53年からフリー。若手芸術家の表現の場「Plan B」企画委員、ニューヨークP. S. 1美術館東京代表、アートキャンプ白州事務局長、新潟市民芸術文化会館アドバイザー・プロデューサー

①都市に充足、完成はありえない
②インタビュート・伝説が街をつくる
③インタビュート・心を伝える
「物語都市横浜」の創造

1 記憶としての都市
2 未完の開放系としての都市
3 日本の都市に望まれるもの

たが、スターリン建築の偉容さは大方残され、それ以前の昔はクレムリン城から、近くはアーデル・デコ、構成主義の建築まで、「地下の贅沢」ともいふべき地下鉄の壮麗さも改修され復活している。石の建築だから残せるのだろう……。それだけではなく、何度でも再生してみせる、それも過去を記憶しつつ、という気概があるような気がする。

共産主義が残した「科学主義」なのだろうか。あつたこと、あつたものは、あつたのだという醒めた現実主義、忘却に逃避しない奥行きのある意識。モスクワびいきの私は、そこに魅力を感じている。うらやましいと思う。

③ ノーマディックな立場からの発想

「人が集まる」「コンベンション」という本稿のテーマに、私は集まりに行く人、または人を集める仕掛けをする人、としてしかこたえられない。「人を集める装置」をつくる人ではないからだ。また、どこかに住民登録はしていても、ノーマディックに各地の都市や地域に出没しては、そこに没頭し、また次へ行くといった活動様式だから、定住者や行政側から見れば、はなはだ無責任な立場である。

ノーマッド、いわば「渡世人」としての私の顔その一は、国際会議の通訳者であること。その二は、美術、舞踊、音楽のプロデューサーであること。前者の立場では、いわゆる「コンベンション経済」の一端に連なっているというところで、本稿ではそれ以上は述べないでおくことにする。

むしろ後者の立場だ。定住者の位相とは少

し違う観点から、文化、アート、イベントといった発見と体験の焦点づくりをする。集まる、または「集める」といっても数が多ければよいというものでもない。主流のテーマ、傍流のテーマ、異端のテーマ、それぞれに場があつてしかるべきだ。そのような考えでプロデュースの仕事をする私の都市、場所への個人的こだわりを述べさせていただく。

2 未完の開放系としての都市

① さまざまな「負」をかかえる人類生命

生き生きとして、常に変化し、刺激的な場所—生命活動そのものの場所—それが魅力ある都市である、と言つてしまえばそれまで。私たち一人一人が生活すること自体を、生命活動としてみれば、周囲の活性度も、また変化のスピードや循環のあり方も、生命という共通項で結ばれている方が無理がないと思える。

ところが、ことはそう簡単にいかない。

住む側の、「現代人」という人間の側には、誕生前の胎児から生命の終わりへと向かう老人まで、さまざまな状態がある。また、おのおの生命段階において疾病や障害でさまざま

な困難を抱えている人がいる。生命とは「元氣」ばかりでなく「衰弱」や「欠如」、また「困難」を包括しての過程である。幸いにして人類は、知識、技術、そして倫理の発達のおかげで、そうした「負」の要素を不可分のものとして包摂し、カバーし、または癒しながら、集合体としての生活を続けることができるようになった。自然淘汰、適者生存と

いった単純なダーウィニズムはもはや適用されない。

「ホモ・インフィルム」(病める種、不安定な種)という規定をホモ・サピエンスに与えた科学哲学者がいたが、その通りだと思つ。他の生命種と区別して、人類を固有の種として特定するのに、「ホモ・サピエンス」「ホモ・ファベル」などいろいろな特徴検出がなされてきたが、現在の社会生活を前提にするなら、この規定をとるべきだ、と思われてならない。

② 「都市化」する農山漁村をうむ社会構造

身体、精神の両面において、病んでいる、欠けている、不安定であることを「負」の要素と前述したが、これは決してマイナスの意味で言ったのではない。そのことは共感の発露、相互補完と扶助の基盤となり、人間を人間たらしめる不可欠な認識をうむ。

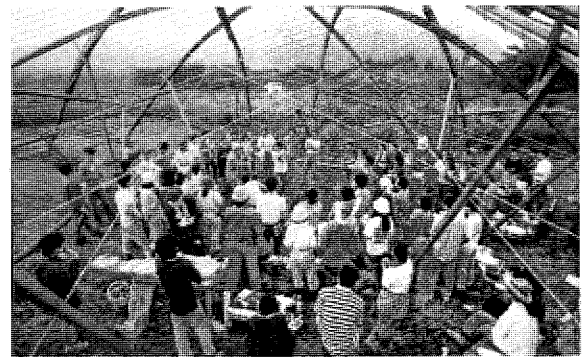
そして「都市」の問題だが……。ここで私の立場は複雑きわまりないものとなる。まず、都市で生まれ、育ち、今も都市を中心に活動しているとはいへ、一個人としては、常にその逆像といおうか、その原像といおうか、都市以外の場所、主に農山漁村を意識しないであらぬ状態がつづいている。

少なくとも日本では、農山漁村も行政面では都市と変わらない福祉や文化面での政策を施行し、経済面では都市以上の行政による補助が行われているようだ。国全体の経済・社会構造が都市へと向かうベクトルで再編された結果、まずは「都市問題」の解決がうたわれ、ついに現在「全国の都市化」が進んでいるともいえよう。

写真-2 アートキャンプ白州 巨麻神社でのフィナーレ



写真-1 アートキャンプ白州 建築ワークショップ「竹のドーム」の棟上げを祝う



白州・夏・フェスティバル1988～1992

	1988年	1989年	1990年
開催形態	●日程 7/29(金)～31(日) 3日間 ●会場 山梨県白州町横手、大坊地区(甲斐駒ヶ嶽神社/巨麻神社/鳥白の森) ●参加者 のべ約2,000人(町民1,400 町外600人) ●ボランティア 70人	●日程 7/27(木)～30(日) 4日間 ●会場 山梨県白州町横手、大坊地区(甲斐駒ヶ嶽神社/巨麻神社/栗林) ●参加者 のべ約4,000人(町民1,800 町外2,200人) ●ボランティア 100人	●日程 7/26(木)～29(日) 4日間 ●会場 山梨県白州町横手、大坊地区(巨麻神社/栗林/山の舞台) ●参加者 のべ約4,500人(町民2,000 町外2,500人)
伝統芸能	●神楽 白州町横手地区伝来 甲斐駒ヶ嶽神社代々御神楽保存会 ●津軽三味線 山上 道 ●沖縄民俗芸能エイサー 東京沖縄県人会青年部(以上、毎年恒例)	●八丈太鼓	●演武 溝口派一刀流(以来恒例)
踊り即興	●独舞シリーズ 五井輝ほか10人	●舞臺+田中浜 白州版「春の祭典」 ●戸川翔子 雪ん子(白桃房) ●石出卓也 ●石丸徳秀 ●遠藤寿彦 ●杉田文作 ●高井富子 ●田辺知美 ●花園カノン ●宮川正臣	●舞臺+田中浜 白州版「樹-ツリー」 ●石出卓也 ●石丸魚 ●江原朋子・加藤通子 ●エーリじゅん ●大野一雄 ●邦千谷・他 ●サクマクミコ ●田中敏 ●田中浜 ●谷中優火 ●宮川正臣
音	●ウパニッシュト セレブレーション(喜納昌吉)(沖縄のニューエイジロック・民謡) ●古川壬生(津軽フォーク・縄文をうたう男) ●野口実とミュージシャンズ	●林英哲(和太鼓) ●松本進・大倉由紀枝(クラシック独唱)+田中浜 ●山口恭範(パーカッション) ●岡谷合唱団	●声明 真言密教伝統詠唱 高野山金剛峯寺 ●ハムザ・エルディン(スビア民俗音楽楽器ウード・太鼓) ●弦楽の旅(スビア・チェコ・沖縄・津軽・現代)
演劇の解体		一人語り ●関弘子(近松門左衛門作「曾根崎心中」) ●牧良介(津軽言葉による一人芝居「目くらの話」) ●国本武春(新作浪曲)	真似る一動物踊り ●山崎龍人(大甲州城 静岡県静岡市駿河区 中津土俵) ●清沢神楽-キツネ(阿佐川流域 静岡県) 笛・北沢藤麿 ●獅子舞(白州町下牧家石地区伝来)
海外参加	●ミルフォード・グレイブス<ニューヨーク>(パーカッションとボーカリエーション)&田中浜(踊り)	●韓国シャーマニズム・巫俗・ム・ダク<韓国> ●ブータン仮面舞踊団<ブータン王国> ●ジャン・グリーンフィールド<ニューヨーク>(道化師・一輪車・綱渡り・火吹き)	チェコスロバキアの民衆芸術 ●ヴァイト兄弟 ミロスラフ(ベース、元ウエーリボト) アラン(打楽器・電子音楽) ●ダグマル・アンドルトヴァー(ギター・歌) ●イヴァ・ピトヴァー(歌・各種楽器・芝居) ●チェコのアニメーション
映像	●イメージロード(光学劇場)毎年恒例 ●無声映画「血煙高田馬場」	●以来98年まで42作品 ●新作20+旧作9 計29作品 ●パフォーマンス ●池田龍雄 ●大串孝二	●パフォーマンス ●カレル・アップル 特別参加: 田中浜(野外絵画制作ライブ)
美術 野展 外長	●パフォーマンス ●藤原和通 ●松沢有 ●福原康二 ほか13作品		
ワークショップ	●ミルフォード・グレイブスによる 身体・音・自然をめぐるワークショップ ●農業のワークショップ(田中浜)以来恒例 ●子供のワークショップ	●環境のリズムと身体ワークショップ ●身体とことば、声のワークショップ(チェコ演出家 オンドレ・フラブ)	●白州探訪 ●体験農業
シンポジウム	●美術家によるシンポジウム ●中上健次と喜納昌吉他	●白州の生き物たち ●野外美術展参加者を囲んで ●山と幻想と舞踏(谷川雁・中上健次)	●セッションとトーク チェコのミュージシャンを囲んで(灰野敏二・ヴォイス・打楽器・木樫和枝) ●新しい景観学を探る-自然環境と美術造形(谷川雁) ●白州町の歴史、自然、未来
その他	●神事(甲斐駒ヶ嶽神社宮司) ●交流パーティー(前夜祭・最終日) ●白州日々新聞	●神事(甲斐駒ヶ嶽神社宮司) ●大道芸(門付け・ガマの池尻り・バナナの吹き売り 曲芸・南京玉すだれ・薩摩琵琶) ●出店(針金細工・べっこう給細工・モール細工) ●交流パーティー(前夜祭・最終日) ●白州日々新聞	●動物パレード ロバの会 ●大昼食会 ●特別プログラム 立川談志 ●モーアシビ(沖縄の歌垣) ●一般参加者との沖縄流交流 ●出店(針金細工・べっこう給細工) ●交流パーティー(前夜祭・最終日) ●白州日々新聞
開催形態	●日程 7/25(金)～28(日) 4日間 ●会場 山梨県白州町横手、大坊地区(巨麻神社/栗林/土の舞台) ●参加者 のべ約5,000人(町民2,200 町外2,800人) ●ボランティア 110人	●日程 7/30(木)～8/2(日) 4日間 ●会場 山梨県白州町横手、大坊地区(巨麻神社/栗林/土の舞台/赤土広場) ●参加者 のべ約5,200人(町民2,200 町外3,000人) ●ボランティア 120人	
伝統芸能	●御諏訪太鼓 小口大八と御諏訪太鼓保存会 ●黒田人形 長野県下伊那郡上郷町の人形浄瑠璃	●虎頭舞 甲州台ヶ宿虎頭舞の舞保存会	
踊り即興	●舞臺+田中浜 白州版「春の祭典2」、独舞シリーズ	●舞臺+田中浜 白州版「春の祭典3」、独舞シリーズ	
音	●祭り囃子 ●岩木山登山囃子 青森県岩木山登山囃子保存会 ●矢柄神社祭礼囃子 静岡県大塚まつり囃子倶楽部 ●大船義実(ワルト)とパーカッショングループ ●日本音楽集刊誌 ●秩父屋台囃子 沖縄島歌 ●照屋林助	●沖縄の島歌 ●知名定男 ●徳原清文 ●吉謝美佐子 ●秩父屋台囃子 埼玉県高野吉と秩父社中 ●タベの祈り アメイジング・グレイス	
演劇の解体	●新作能「竹」(原作: 萩原朔太郎) 観世栄夫・梅若六郎 仕草、身振り、表情 ●マルセ太郎(以来、毎年恒例)		
海外参加	●ベトナム民族芸能「黄色い竹の旅団」(様々な竹の楽器、民俗楽器) ●アナ・ハルプリン 日の出の儀式「EARTH RUN」 ●ローレンス・ハルプリン「アウェアネス・ウォーク」(米ランドスケープ・アーキテクト)	●セルシ・テイラー & 田中浜(踊り) & 富樫雅彦(ドラム) & 一噌幸弘(能管) ●ハンガリー・ジプシー団 カイ・ヤク「黒い炎」 ●野外写真展 ヤロスラフ・クレイチ(チェコスロバキア)	
映像	●映画「風の積分」(作: 鈴木志郎康)	●野外映像パフォーマンス(光学劇場)	
美術 文風 三郎	●パフォーマンス ●霜田誠二		
その他	●津軽の前衛「ねぶた絵」 鈴木秀次(祭り囃子) ●動物パレード ロバの会 ●大昼食会 ●越日餅つき大会 ●沖縄の歌垣モーアシビ ●出店(針金細工、べっこう給細工など) ●交流パーティー(前夜祭、最終日) ●白州日々新聞	●動物パレード ロバの会 ●大昼食会 ●沖縄の歌垣モーアシビ ●出店(針金細工、べっこう給細工など) ●交流パーティー(前夜祭、最終日) ●白州日々新聞	

③ 都市と非都市が往還しあう関係を
だが、文化の面ではどうだろう。農業、漁業という生産文化の衰退とともに、環境はもちろん、生活意識も生活技術も都市化し、その土地それぞれの固有の人間資源が希薄化している。景観はもちろん、技術、知恵、然り。十年以上前、仲間たちとともに、山梨県の

白州町で複合的なアートフェスティバルを開始するとき、私たちは「農村から都市を逆照射する」と宣言した。主に農業を行ってきたこの町(人口四千余)に美術、建築、舞踊、演劇、音楽、文学などの人材で構成したボランティアグループが接近、町主導ではなく、私たち実行委員会が主導して自主的に年一回

のフェスティバルを行った。いわば「おしかけイベント」であり、町役場も住民もそれを受け入れてくれたという関係だ。
私自身は少なくとも四代前からはずっと都会に棲息する家系だが、元をたどれば先祖は皆、農山漁村というか、都市ではない場所で生きていたはずだ。血縁はなくとも、そう

アートキャンプ白州1993~1998

	1993年	1994年	1995年
開催形態	●日程 ARTCAMP 7/3(出)~8/20(日) フェスティバル8/27(出)~29(日) ●会場 山梨県白州町横手・大坊地区 (巨麻神社/栗林/土の舞台/赤土広場) ●参加者 のべ約1万人 (町民3,500 町外6,500人) ●ボランティア 200人	●日程 アートキャンプ 7月9日(出)~8月28日(日) フェスティバル 8月25日(出)~28日(日) ●会場 山梨県白州町横手・大坊地区 (巨麻神社/栗林/土の舞台/竹のドーム広場ほか) ●参加者 のべ1万2千人 (町民3,700人 町外8,500人) ●ボランティア・スタッフ 約200人	●日程 アートキャンプ 7月8日(出)~8月27日(日) フェスティバル 8月24日(出)~27日(日) ●会場 山梨県白州町横手・大坊地区 (巨麻神社/栗林/土の舞台/竹のドーム広場ほか) ●参加者 のべ12,500人 (町民3,900人 町外8,600人) ●ボランティア・スタッフ 約170人
伝統芸能	●秩父屋台囃子	●白州チンドン (長谷川宣伝社ほか) ●江刺鹿踊 奥山行上流餅田鹿踊保存会 (岩手県)	●長谷川宣伝社 (チンドン) ●西馬音内盆踊り (秋田県羽後町・西馬音内盆踊り保存会) ●落語 (立川談笑、立川團次郎、立川志穂、立川ワコール)
踊り・即興	●舞塾+田中浪 「古代緑地」、独舞シリーズ	●舞塾+田中浪 舞踏「古代婦人」 ●「ダンス・白州」独舞シリーズ (以来恒例)	●舞塾+田中浪 舞踏「Yさんの畦道で」「草原に鯨を見た」 ●「ダンス・白州」
音	●モンゴル・日本・ユーラシアの風 ●道ばたコンサート ●紙飛行機 アニメ/ウタス(インディア/ア説とジャンク)	●一幸弘 (能管)、薫木貴将 (サンボニヤ、ケーナ) ●「風の音楽 ホームー」(ロシア/TUVA自治共和国) ●「ボイス・サーカス」巻上公一ほか ●「ベツニ・ナンモ・クレズマー」梅津和時ほか	●八木のぶお (ハーモニカ)、大島保克 (沖縄島唄) ●「即興と自然-五大の響き」原田依幸 (ピアノ)、トリスラン・ホンジンガー (チェロ、オランダ)ほか ●ダグマー・アンドルトツパ (ギター、歌、チェコ) ●薫木貴将 (サンボニヤ、ケーナ) PA DELANTE ●ヤヒトモヒロ (perc)、鬼怒無月 (g)、谷川賢作 (p,key) ●「超歌謡セッション」巻上公一ほか
海外参加	COMPANY WEEK ●アレック・ベイリー (ギター) ほか即興音楽家10人		
映像	●野外映像展示「白州・夏の記憶'88~'92」	●新作能「竹」(萩原朔太郎の詩より) 構成・節付・演出 観世栄夫 ●「サーカスがやってきた」 ●演劇「少年」	●演劇「劇小町杜哀記」アラパール原作 演出・出演 観世栄夫 ●大道芸-王健 (中国曲芸) ほか
ワークショップ	●子供の体験疎開 田中浪 ●舞踏ワークショップ 舞塾 ●演劇ワークショップ 観世栄夫 ●建築ワークショップ「天空の息」 ●音楽ワークショップ ●美術ワークショップ ●紙すき・絵すきワークショップ ●炭焼きワークショップ ●大豆のいろいろな講習会	●パフォーマンスプロジェクト「野宮」 通行劇場、吉田達也 (d,v,k,y,g)、増田隆一 (b)、RUINS 佐々木 暉 (d,perc)、GUTI ABACUS(火吹き)、丹野賢一 オリジナル・サウンド・トラック(黒川芳信、大南匠、佐々木 暉)	●パフォーマンスプロジェクト「野宮」 「摩訶」 通行劇場 (パフォーマンス)、「微視的な海」田中浪 (ダンス)、「ライブ版野宮の書」黒川芳信 (映像) +大南匠 (音楽) ●「侵蝕」 通行劇場
その他	●動物パレード ロバの会 ●大昼食会 ●沖縄の歌垣モーアジビ ●出店 (針金細工、べっこう飴細工など) ●交流パーティー (オープニング、前夜祭、最終日) ●白州日々新聞	●動物パレード ロバの会 ●白州中学・峡北高校バスバンド ●出店 (べっこう飴細工ほか) ●大昼食会 ●野点茶会 ●交流パーティー (オープニング、前夜祭、最終日) ●白州日々新聞	●身体気象農場10周年記念祭 ●動物パレード ロバの会 ●出店 (べっこう飴細工ほか) ●大昼食会 ●野点茶会 ●交流パーティー (オープニング、前夜祭、最終日) ●白州日々新聞
1996年	●日程 アートキャンプ7月6日(出)~8月25日(日) フェスティバル8月22日(出)~25日(日) ●会場 山梨県白州町横手・大坊地区 (巨麻神社/栗林/土の舞台/竹のドーム広場ほか) ●参加者 のべ1万3千人 (町民 3700人 町外9300人) ●ボランティア・スタッフ 約160人	●日程 アートキャンプ7月2日(出)~8月10日(日) ●会場 山梨県白州町横手・大坊地区 (栗林/土の舞台/山の名木公園ほか) ●参加者 のべ5千人 (町民 1800人 町外3200人) ●ボランティア・スタッフ 約100人	●日程 アートキャンプ7月27日(出)~8月25日(日) フェスティバル 8月24日(出)~27日(日) ●会場 山梨県白州町横手・大坊地区 (栗林/土の舞台/山の名木公園ほか) ●参加者 のべ6千人 (町民 2100人 町外3900人) ●ボランティア・スタッフ 約120人
伝統芸能	●西馬音内盆踊り (秋田県羽後町・西馬音内盆踊り保存会)		
踊り・即興	●舞塾+田中浪 舞踏「私は土から生まれた」 舞踏「オズの魔法使い」 ●「ダンス・白州」15組 ※後話 (宇野邦一、合田成男、鴻英良) ●田中浪追悼の舞	●「ダンス・白州」独舞21人 ●田中浪◎国際共同制作シリーズ◎アメリカ 習作舞踏公演「ザ・ボー・プロジェクト-粘膜の嵐」 構成・演出：田中浪 ●フェリックス・ライコ (バイオリン、セルビア) ●田中浪+フェリックス・ライコ	●「ダンス・白州」独舞35人 ●田中浪◎国際共同制作シリーズ◎チェコ 「GRIMM GRIMM第2巻-日本編-」白州版 構成・演出：田中浪 音楽：灰野敬二 出演：チェコ、日本のダンサー ●ミルフォード・グレイヴス (perc,アメリカ) ●田中浪+ミルフォード・グレイヴス ●千野秀一ピアノのタバ
音	●八木のぶお (ハーモニカ)、三上寛 (ギター、歌) ●「千年を聴く、千年を謡う」 イヴァ・ビツァ (バイオリン、チェコ)、巻上公一 (ボイス) ほか ●「すべて天上にある魂のために 武満徹の音宇宙」 長谷川きよし (歌、ギター)、ほか ●ソカル・フラー・モノク・サミット (チンドン・ソウルバンド) ●「超歌謡セッション」巻上公一ほか ●中村達也パーカッション・ブラザーズ (中村+関本充成)	●現代話芸 マルセ太郎「泥の河」 ●道化芝居「ミミクリーチ」(ウクライナ)	●現代話芸 マルセ太郎「殺陣師段平物語」 ●チェコの人形劇の原点「ピスカンデルウラ」 ヴェラ&フランティシエック夫妻 (チェコ)
演劇の解体	●モンゴル国立サーカス (モンゴル) ●舞踏劇「千年の愉快」原作 中上健次 演出・出演 田中浪 出演 観世栄夫ほか	●パフォーマンス	●パフォーマンスウィーク「風の便り」 風倉匠「カバラ98白州」、千野秀一「蟲めづる川」ほか
映像	●野外映画大会「寺山修司シネ・ワールド」「迷宮譚」 「トマトケチャップ屋敷」「田圃に死す」「ジャンケン戦争」ほか2本		
ワークショップ	恒例	恒例	恒例
その他	●動物パレード ロバの会 ●肖像写真天幕 (木村功) ●出店 (べっこう飴細工ほか) ●大昼食会 ●野点茶会 ●交流パーティー (オープニング、前夜祭、最終日) ●白州日々新聞 ●美術家対話「景観と工作をとらえなおす」	●交流パーティー (オープニング、お別れ) ●アジア最大の現代美術展「光州ビエンナーレ98」 (韓国・光州市) に美術家とダンサーが参加	●交流パーティー (オープニング、お別れ) ●チェコの人形劇の原点「ピスカンデルウラ」東京公演 ●「ミルフォード・グレイヴス+田中浪」東京公演 ●「GRIMM GRIMM第2巻-日本編-」東京公演

「先祖の地として、私を受け入れてくれ、一度、「ふるさと」たるものの自然を、人間環境を体験させてくれ、というムシのよい論理だった。それを承知の上で言えば、この接点は、私にとって全く新しい世界像をもたらしてくれた。都市の受けとめ方が、常に都市以外と表裏一体のものとしてしか成立しなかつたのだ。

身体、知覚、文化、人間、どの面をとっても都市と都市以外の場所が往還しあえる関係。どちらも自己完結しないで揺らぎの中にある。場所だけでなく、時間、時代の意味合いでも過去と往還しうる都市。未来はあらかじめ唱うものではないと私は思っている。否応なく前進する時間に任せればよいと。

3 一日本の都市に望まれるもの

人は共感し、補完しあつてしか生きられない。集まることは必然である。そのとき、一例としてのモスクワに見る時間の幾層もの重なり。それを受容する成熟、いつくしむ落ち着きが私たちの都市にもほしいと思つている。

特集・創造的コンベンション都市への道 ●魅力ある都市の条件